

奈良文化女子短期大学 第44回幼小接続ワーキンググループ合同研究会
〈奈良文化女子短期大学幼小接続フォーラム〉 議事録

【フォーラムのテーマ】

「つなぐ、つながる～幼児教育と小学校以降の子どもの育ちと学び～」

- 1 日 時 平成25年2月24日(日) 13:00～16:30
2 場 所 奈良文化女子短期大学 本館 4階(405講義室)
3 参加者 139名
うち 幼稚園41名 保育所・こども園24名
その他25名(小学校・教育委員会・教育関連企業等)
当日参加12名 本学学生22名
講師等5名 本学教職員10名

4 内 容

- (1) 講演 白梅学園大学 無藤 隆教授
演題 「保幼小の連携・接続に向けて」

〈要旨〉

- ① 幼保の幼児教育とは
- ② 小学校への接続に向けて指導する
- ③ 小学校の始まりは学習者になること
- ④ 国語の基礎を育てる
- ⑤ 保幼小の連携と交流

〈アンケートからの参加者の声〉

(幼稚園)

幼児教育の大切さを改めて感じました。幼小連携とは…と考えれば考える程、難しさもあり、深くもあり、なかなか答えを見いだせない所もありましたが、幼児教育の中で大切にしていかなければいけない点、育てていく力を改めて見直し、日々の保育を改善していきたいと思いました。

(保育所)

幼児期に育成される学びの土台(根幹)は、子どもたちの日頃の生活やあそびの中にあるということを再確認しました。この時期にこそ大切にしたい事を明確にし、保育の実践につなげていきたいと思いました。

(小学校)

幼児教育で育てたい力と小学校の接続について、子どもの発達をふまえながらきめ細かく教えていただきました。大変勉強になりました。ありがとうございました。

無藤先生が所々でおっしゃられるお言葉は、WGでも度々共通理解してきたキーワードばかりで、一々うなずけました。「小1プロブレムがあるから幼小連携をするのではない。」「幼児教育での育ちを1年初期段階の教育に生

かし切れていない。肯定することから始める…小学校に上がった時に0にしない。」「前のやりかたでやってみて安心させることが必要。…。等々」です。善野先生の総括講演と合わせ、改めて幼小連携の必要性を痛感しました。また、自分たちが研究していることは本当に価値のあることだと思いました。(教育委員会関係)

小学校の学力課題は、幼児教育につながっている。学力問題は幼稚園・小学校のみでそれぞれ完結するものではないことを再確認できた。幼児教育について丁寧にお話をいつも聴かせていただいています。ありがとうございました。

(2) シンポジウム

○ 登壇者

[コーディネーター] 鳴門教育大学大学院 前田洋一准教授

[シンポジスト] 奈良市立平城西小学校 阪本さゆり校長

奈良市立認定こども園富雄南幼稚園 中田章子園長

八尾市立東山本幼稚園 定 豊子園長

○ シンポジストの共通発表テーマ（子どもの育ちと学びをつなぐための取組）

- ・(阪本校長)「幼児教育から小学校教育への円滑な接続をめざして」

事例として、「おまかせ！仕事発表会」「砂の国であそぼう」の取組について紹介

- ・(中田園長)「小学校につながる“心を揺さぶる体験”を」

事例として、「秋の自然物で遊ぶ姿から」「小学校との交流から・・・小学校の校庭散歩、1年生との公園での木の葉・木の実拾い、体験入学」の取組について紹介

- ・(定園長)「子どもの育ちと学びがつながる幼小接続をめざして」

事例として、園庭開放を幼小連携の視点で見直した取組、幼小交流行事には幼稚園の日案を事前渡しするようにした取組、保護者への就学アンケートをもとにした小学校との懇談会開催の取組について紹介

〈アンケートからの参加者の声〉

(幼稚園)

それぞれの校園の実践がとても参考になりました。無理はせず、お互いがプラスになることを思いながら実践していきたいと思います。困っている人は本当はだれ？という前田先生の問いかけはグサッときました。

(こども園)

それぞれの園や小学校に連携における課題がありますが、無理なく負担のかからないようにすること、幼稚園での子どもの姿、活動、魅力を小学校に伝えていくことが必要なのだとわかりました。その園にとって変わらなければ

ばいけないことは何なのかを考えていかなければならないと思いました。

(小学校)

かかえている課題をお話していただけたことがよかった。自分の勤務しているところでも同じと感ずることができた。

いずれも WG のメンバーの実践例が紹介されたが、ここまで、踏み込んだ話を聞く機会がなかったので、大変参考になった。どの実践からも出てきた、「まず教員同士の交流を」「無理のない範囲で」「今あるものの見直しをしたり、生かしたり」を自分の実践でも大切にしたい。

(教育委員会関係)

実際の取り組みの成果や課題を聴かせていただいてよくわかりました。幼小の教師間の意識改革が大事だと思います。何でも話し合える信頼関係と、授業・保育を見合うことが大切だと思います。

(3) 総括 本学 善野八千子教授

- 趣旨 「幼児教育と小学校以降の育ちと学びをつなぐ」をテーマに、本学幼小接続 WG 合同研究会の目的及びこれまでの取組経過、継続研究の意義等についてのまとめ

〈要旨〉

- ① めざす姿の共有
- ② 幼小連携・接続カリキュラムの作成と改善
- ③ 入学後の子どもの「とまどい」から考える
- ④ 「とまどいマトリクス」活用の試み
- ⑤ 合同活動案「一日体験入学」(案)の作成
- ⑥ 子どもの育ちと学びをつなぐために大切なこと

〈アンケートからの参加者の声〉

(幼稚園)

子どもたちが成長していく上で、教師の願いや小学校就学に向けての育ちを実践にどう活かしていくか、改めて考えることができました。善野先生のお話を聞いて、活動や教師の援助、ねらいをしっかりと見つめ直して、明日からの保育に取り組んでいきたいです。

(こども園)

何のために連携・接続するのかを幼小共に考え、計画をし実践をして振り返る(反省する)必要があると感じた。昨年もやっていたからという考えは、今、目の前にいる子どもたちのためにはならないと思った。

(小学校)

善野先生のお話をもっとゆっくり聴かせていただきたかったです。保幼小だけでなくその後のことも含めて連携という広い視野で見通していきたい。

今一度、WG の原点を教えてください、ますます本研究会の意義を深く感じ

ました。今後は、出来上がったカリキュラムをいかに改善し、よりよいものにしていけるのか。幼保小の教員を交えての振り返りの場をどのように設定していくかにメスを入れていかないと、さらなる前進は望めないと思いました。

(教育委員会)

WG 研究発表会の取組の経過がよくわかりました。小学校の先生にもっとたくさん聴いていただきたい内容でした。21 世紀社会を生き抜く力をはぐくむために、それぞれの教育現場で展望して実践していくことが必要であることを大切にしていきたいです。

(4) 全体を通して

〈アンケートからの参加者の声〉

(幼稚園)

あつという間に時間が過ぎ、大変内容の濃いものでした。当園の教職員も感心と納得をして、たくさん学びと熱い思いを話してくれていました。

(小学校)

勇気と元気と知恵をいただいた会でした。ただ、残念なのは、小学校からのアプローチが少ないこと。スタートカリキュラムへの取り組みが遅い市まちがたくさん見られ、歩み出しまでまだまだ時間がかかりそうです。また、逆にそんな状況のなか、本市がけん引役を担っていただけたらいいなと希望を持ちました。

(教育委員会)

どちらの先生のお話もしっかりと実践されている裏付けが感じられ、「もっと聞かせてほしい、ワーキンググループ合同研究会にも参加したい」と思いました。

(教育関連企業)

孫(2歳)のこれからの教育のためにも大変役に立つ研究会でした。

(4) 参加学生の感想

多くの学びになる場に参加させていただき、ありがとうございました。小学校の先生が来られていてご挨拶ができました。この会に参加させていただいていることを誇りに思いながら、また、貴重な先生が熱心に来られていることが地域住民としても嬉しく思いながら、話していました。ご準備、大変だったと思います。ありがとうございました。

5 次回の予定

平成 25 年 3 月 16 日(土) 11:00~12:30

※(毎月定例は、第3土曜11:00~12:30)